

地域を見つめ地域に生きる子どもを育てる「かくれい」

～地域に密着した体験的な活動を通して～

日立市立宮田小学校

1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間を「かくれい」と称して各学年で学習を展開している。かくれいでは、次のことを目標にしている。

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること
- ・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組み態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること

また、以下が目指す子どもの像である。

- ・自らの課題を見つけ、主体的に解決する子
- ・自分の思いや気持ちをのびのびと表現する子
- ・自ら考え、最後までたくましくやりぬく子
- ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを表現する子

ここで紹介する実践事例集は、3年生の「宮田の名人さんとなかよしになろう」という地域の特色や昔から伝わる文化財について理解し、体験活動を通して地域社会への一員として自覚を促す活動である。1学期は、社会科と関連付けて宮田小の周りの今と昔を知り地域の特色を理解する。2学期は、古くから地域に伝わる文化財「日立風流物」について体験を行う。3学期には、それらの体験をまとめ、宮田風流物として発表するという流れで授業を計画している。

2 指導案

(1) 単元名 『宮田の名人さんとなかよしになろう』 ～体験的な活動を通して～

(2) 目標

- 地域に詳しい方と触れ合い、自分たちの町で自慢できるものや良さについて、進んで調べようとする。
- 調べ方を学び、自分が興味関心のある課題を見つけることができる。
- 自分で調べたことを工夫して、整理するとともに、進んで発表できる。
- 地域に伝わるものや、そこにかかわる人々の思いや願いが分かる。

(3) テーマについて

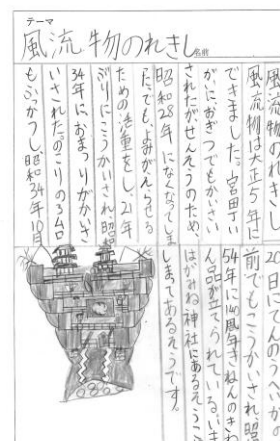
3学年では、地域の伝統や文化に興味・関心をもち、これらに親しみながらその良さを理解し、地域社会の一員として自覚をもって行動する資質や能力を身につけることができることを目標とした。また、社会科の「わたしたちのまち、みんなのまち」との関連で、自分たちの住む地域に伝わるものをいろいろな方法で調べる活動を通して、郷土を大切にしようとする心を育んでいきたい。そこで、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている日立風

流物に視点をあてた学習を展開することで、地域の伝統や文化に興味や親しみがもてるようにしていきたいと考えた。

(4) 単元計画 (70時間扱い) (G T : ゲストティーチャー)

	学習計画	主な学習内容
ふれる	テーマ『宮田の名人さんとなかよしになろう』	
	○オリエンテーション	・ かくれいの学習について知る。
	・ 宮田学区について調べよう。	社会科との関連で学区の特徴や古くから伝わる文化財について調べる。
	・ 宮田学区のもの知りさんにインタビューしよう	昔から学区内に住む方に、G Tとして来て頂いて学区のことや文化財のことについて学習する。
	・ 今まで調べてきたことを新聞にまとめよう。	学区の特徴や、古くから伝わる文化財について、今まで調べてきたことを基に、新聞にまとめる。
	・ お礼の手紙を書こう。	G Tにお礼の手紙を書く。
つかむ・体験	・ 「風流物」について調べよう。	インターネットや資料などから風流物について調べる。
	・ 風流物についてのV T Rを視聴しよう。	V T Rを視聴し風流物について調べる。
	・ 「風流物」(鳴り物や人形操作)を体験しよう。 (本時)	G Tに来て頂いて、実際に風流物で使われている人形を使い、動かし方や伝統を守るための苦労や工夫について学習する。
	・ お礼の手紙を書こう。	G Tにお礼の手紙を書く。
まとめる	・ 鳴り物や人形操作やささら踊りなどについて調べ、発表するための準備・計画をしよう。	グループに分かれ役割分担を行い、発表するための準備や計画を行う。
	・ 宮田風流物を発表しよう。	今までの学習のまとめとして宮田風流物を発表する。

○風流物のことについてまとめたレポート。



(5) 本時の学習

①ねらい

- ・実際に風流物で使われる人形を使い、動かし方など体験しながら地域に伝わるものや、そこにかかわる人々の思いや願いが理解できる。

②準備・資料

- ・プロジェクター ・スクリーン ・風流物の人形 ・学習ワーク

③展開

◎個に対する指導の手立て

	学習活動・内容	支援の手立てと評価
つかむ	1 本時のめあてを確かめる。 風流物で使われる人形を使い、伝統を守る苦労や願いを知ろう。	・実際に今も風流物で使われている人形を掲示して意欲を高める。
	2 G Tを招いて、風流物の歴史や特徴についてスライドを使って教えてもらう。	・スライドを用いて、昔と今との違いや風流物の種類、特徴や歴史など視覚的に情報を共有する。
	3 風流物で使われる人形の動かし方や直し方を知る。	・実際に今も現役の方から動く仕組みや動かし方を教えてもらい、実際に動いている様子を観察する。
	4 実際に人形を使って動かす。 ・動かし方の注意 ・動く場所 ・力の加減 ・実際には一人で全て動かしている	・児童たちが実際に人形を動かす時には、2人組になるように指示する。 ◎動かす際に、かなり力が必要な場所があるので、G Tと一緒に動かしてみる。
	5 実際に今も現役で動かしている方から風流物を続ける大変さや苦労、願いを聞く。	(評) G Tの話を聞いたり、実際に人形に触れたりすることで、風流物を続ける大変さや苦労が理解することができた。(ワークシート・発言)
	6 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。 ・ワークシートをまとめる ・感想発表 ・お礼の言葉	・今まで調べてきた風流物のことについて、自分でテーマを設定しレポートにまとめていくことを知らせる。

(G T: ゲストティーチャー)

3 資料

風流物の紹介



人形の動きの仕組み



人形を動かしてみよう①



人形を動かしてみよう②



4 成果と課題

(1) 成果

- ・ G Tに来てもらったり、実際に風流物で使われている人形に触れたりすることで学習意欲の向上につながった。
- ・ スライドを用いて風流物の歴史や特徴を学習することで、話だけでは分からない部分も資料を通して深く学ぶことができた。
- ・ 実際に今も現役で風流物を動かしている方をG Tとして招いたことで、苦労や願いなどを直接肌で感じそれを共有することができた。
- ・ 自分たちの学区で行われている行事に対し、今まで興味をもつことができなかった児童も、自分の生活とからめて身近に感じ興味をもつことができた。

(2) 課題

- ・ 難しい言葉や専門用語など、話の内容が難しくなることがあったのでG Tとの綿密な打ち合わせが必要である。
- ・ G Tへの負担が大きいので、人形の運搬や準備など事前に準備できるように配慮したい。